

氏名	高畑陽子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	医学
学位授与番号	博甲第 4505 号
学位授与の日付	平成 24 年 3 月 23 日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学位論文題目	Relation of Prenatal and Postnatal Status to Calcaneus Quantitative Ultrasound in Adolescents (出生前後因子と思春期の踵骨骨量との関係)
--------	---

論文審査委員	教授 尾崎 敏文 教授 土居 弘幸 准教授 児玉 順一
--------	-----------------------------

学位論文内容の要旨

母体環境や生後の生活習慣は幼児期の骨密度に影響を及ぼすことが明らかにされている。しかし、その思春期骨密度に与える影響については明らかになっていない。本研究では、出生前後因子および後天的獲得因子の思春期踵骨骨量に与える影響について明らかにした。2008年9月から12月の期間に中学生・高校生を対象に調査を実施し、1,143人(男子501人、女子642人)を分析対象とした。踵骨骨量と体組成について測定を行った。また、母子の出生前後因子については母子健康手帳より転記してもらい、その他、属性、後天的な獲得因子について、質問紙に記入してもらった。重回帰分析より、妊娠中の母親の体重増加量は、思春期女子の踵骨骨量に有意に影響をおよぼしていた。また、高い握力は、思春期男女ともに踵骨骨量に有意に影響をおよぼしていた。これらの事より、妊娠中の体重増加を抑制しすぎる事が子の骨健康に悪影響を与えることが示唆された。また、思春期の子どもには、最大骨量を高める為に、筋力をつける運動の実施が有効であることが明らかになった。

論文審査結果の要旨

母体環境や生後の生活習慣は幼児期の骨密度に影響を及ぼすことが明らかにされている。しかし、その思春期骨密度に与える影響については明らかになっていない。本研究では、出生前後因子および後天的獲得因子の思春期踵骨骨量に与える影響について明らかにした。2008年9月から12月の期間に中学生・高校生を対象に実施し、1,143人(男子501人、女子642人)を分析対象とした。重回帰分析より、妊娠中の母親の体重増加量は、思春期女子の踵骨骨量に有意に影響をおよぼしていた。また、高い握力は、思春期男女ともに踵骨骨量に有意に影響をおよぼしていた。これらの事より、妊娠中の体重増加を抑制しすぎる事が子の骨健康に悪影響を与えることが示唆された。また、思春期の子どもには、最大骨量を高める為に、筋力をつける運動の実施が有効であることが明らかになった。

これは重要な知見を得たものとして価値のある業績と認める。

よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。